

様式 2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP 公開 (可 ・ 否)

区 分	1.森づくり 4.森と暮らし	2 森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 植林	(ふりがな) しょくりん	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	植付け		
伝承地域	白河市表郷地区		
由 来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)		
内 容	<p>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合はレシピなども)</p> <p>植林は主に女性が中心になって行った。樹種はスギ、ヒノキなど。20～30 本の苗をビクと呼ばれる植林専用で作られた木綿生地 of 容器に入れ、それを背負って植林の現場まで登る。ビクの脇は開いているため背負ったまま片手で苗を引き出すことができる。苗がなくなると山から下りて苗を取りにいかなければならないので、なるべく多くの苗を持参した。</p> <p>植林の前に「地ごしらえ」をする。通例は「スジ刈り」といって植えるところだけを筋状に刈り払う。植えるか所は地面の 2 尺四方くらいを 20 センチメートルほどの深さにトウグワで耕す。土の表面をきれいにしたあとで直径 1 尺ほどの穴を掘る。穴にはゴミをいれないように注意しながら苗を置き、周囲のクロボク (黒土) を穴に入れる。上手な人はゴミをきちんと取り除き深さも一定に掘るが、下手な人は穴のゴミを取らず深さも不揃いになるので、せっかく植えても枯れる苗が出る。一人当たり一日 100 本以上は植える。</p> <p>スギは 1 ヘクタール当たり 3,000 本、ヒノキは 3,500 本とされる。苗と苗の間隔はスギが 1 間、ヒノキは 170 センチメートル弱である。畝の間隔は傾斜度によって違うが、傾斜度が強くなると畝の間隔は広くなる。一坪当たり 1 本くらいと考えてよい。</p>		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典) 『表郷村史 3 民俗編』 白河市教育委員会		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先	電話	

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

植林には3つの方法がある。植林する山に100メートルくらいの長さの縄を張り、縄には等間隔に印が付いていて、15人から30人くらいの人が一列に並んで植えていく。2つ目は長い縄を張るが、受け持ちの人が棒きれなどを地面に挿して目印にし、そこに植える方法、3つ目は物差し代わりに棒を使い、縦横を棒で計って植林する方法で、これは一人が1畝歩を受け持つ。

マツの植林作業



（白河市教育委員会）

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。